

## 第1回審議会で共有した主な課題について

## ○検討用基礎資料(区の現状)から見えた課題

- 「ほっとできる居場所がない」と答えた中学生が3%もいる。
- 「子どもから見た遊び・憩いの環境」で、区内の公園は物足りないと思う子どもたちが3割程度いる。
- 中野区は共働き家庭が多い印象がある。親が帰ってくるまで子どもが孤立している時間があるのではないか。
- 「他の人に相談したり話したりする頻度」について、中野区はSC・SWが物足りないのではないか。
- 高校生世代の実態を把握できていない。
- 中学生には居場所があまりない。
- 「子ども本人のサービス利用意向」について、困窮層・周辺層の利用意向が高いことを考えると、学校という「場」をもっと柔軟に活用できると良いと思う。
- 場所の利用意向がアンケート結果として出ているのだから、私たちはその声を聞いていけないといけない。
- 子どもの意見表明権の前に、聞いてもらう権利があるということが大切。聞いてもらわないと子どもは話さない。聞いてもらう場所があることを捉え直していけないといけない。「聞く」ということをもう一度考えていかなければならないと思う。
- 困窮層の中学生の授業の理解度の数値が低く、中野区でも貧困の問題は深刻だと思う。

## ○委員が感じている子どもを取り巻く現状と課題

- 家出する子どもや家庭内DVを目の当たりにすることがある。
- 育児の課題は、家庭(親と子)だけでは解決できない。煮詰まってしまう。正解も正しい解決策もない中で、親も追い詰められている。
- 子どものあり方を親が理解していないと権利侵害などが起きかねない。家庭という閉ざされた、他人が入り込めない空間に人権や子どもの権利を育てていくことが大

切。子どもが意見を言える環境をどうやって作っていくか。家庭の中にどうやって踏み込み、寄り添った支援ができるかが重要。

- 「全然話さない」子どもがいる。一人でも頼れる大人がいるといい。相談できたり外につながりを求めることはとても大切。
- 子どもは、困っているときに相談できない場合が多い。困ったときに SOS を出せるよう、普段のつながりが大切だと思う。
- 相談機関として、「子どもの人権110番」などがあるが、ハードルが高い。
- 学校の先生や近所の大人など、ななめの大人がキャッチして相談してくれるケースが多い。
- 普段から信頼できる大人がサポートしてくれて、何かあったとき助けてくれるケースが多いのではないか。
- 専門的な相談窓口は、「どんな問題を抱えているのか自分で整理して持ってきてください」と相談者に投げかけているのが実情。しかし「どんな問題だかわからない。なぜだかわからないけど困っている」という人もいる。そういう人の思いを受け止めて整理し、様々な所につなげていく支援が必要。条例で設ける専門機関とはそういうものではないか。ちょっとしたメールや電話などで、気軽にできるものが必要である。
- 児童館で子どもたちのイベントなどを開催できる。児童館については、なくすのではなく、運営方法を変えることができるといいのではないか。
- 少人数学級や統廃合が進む中で、学校に居場所をつくることの難しさを感じる。
- 小学校は担任教諭の能力が重要になってくる。子どもの小さな変化にアンテナを張って気づけるかどうか重要である。
- いつも同じ服を着ている、朝ごはんを食べていないと思われる、など様々な家庭があるが、現状では学校は家庭に踏み込めない。何もしてあげられないことがもどかしい。
- 中学生の居場所は基本的には学校である。部活動や委員会活動などを通じて、自己肯定感を高めてきた。
- 中学校を居場所とする場合、予算や人員が必要になってくる。
- 学校以外の居場所というのは、中学生では現実的ではない。
- 中野区には園庭のない保育園がたくさんある。保育園の多い地区は、園の公園利用が重なってしまうこともある。また、遊び場(公園)を探して歩き回る親子の話をよく聞く。高学年の子どもが先に使っていると他を探したり、子育てひろばも制限があったりと、特に乳幼児のお母さんは困っている。
- 地域で活動をしていると、中学くらいまでは目が届くが、高校までいくと難しい。(中学校卒業後は追えない。)

- 高校の進路を親に決められて、絶望して泣いている中学生がいた。子どもたちは、「自分たちの人権なんて尊重されていない」と感じながら成長しているのではないか。
- 子どもの権利について、子どもから子どもへ発信することも大切だと思う。
- 人権擁護委員として、子どもたちと関わりのある機関(相談窓口など)と連携ができると良いと思うが、個人情報の問題などがありなかなかうまくいかず、もどかしい。
- 子どもは、ふとしたことで学校に行けなくなることがある。そのことに苦しんでいる子どもがたくさんいる。そういう子どもに、家でも学校でもない居場所があると良い。
- 子どもの多様性を尊重することが重要。子どもがどう成長していくか、最終的には子ども自身が決めることである。子どもを応援する視点が大切だと思う。
- 中野の NPO や地域の方は、熱い思いを持った人が多い。NPO とつながるとそこから地域の母親・父親につながり、そこから不登校の親などにつながり、居場所支援、学習支援など様々な活動に派生する。ひとつつながるとどんどん広がることができる。そのあたりが権利条例に盛り込まれていくと良いと思う。
- 区内は、子ども食堂の活動が活発である。

#### 見えてきた課題

- 中高生の居場所が少ない
- ほっとできる居場所が必要(学校や家庭に居場所がない子どもへの取組)
- 虐待や貧困などの困難を抱える子どもがいる
- 孤独を感じることもある子どもがいる
- 公園の改善が必要
- 学校環境の改善が必要(ハード整備、指導や相談を行う人材の充実など)
- 家庭や学校以外の相談支援体制が必要
- 子どもの意見を吸い上げる場所が少ない(代弁者の不在)